

自尊感情を高める

庄原市立庄原小学校 校長名：西田 早苗【施設泊】国立三瓶青少年交流の家

自分に自信をつける体験活動の評価の工夫

1 「山・海・島」体験活動を通じて育てたい児童の姿

庄原小学校では、自ら課題を見付け、主体的に学び、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、課題の解決や探究活動に主体的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする児童を育てていきたいと考えています。

そのために、横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、課題を発見・設定する力や知識を活用する力を高める場を設け、自ら思考し、追究することができるようにしています。

児童には、目指すべき学びの姿として、「生きた知識」「課題を見つけ追究する力」「相手に伝える力」「共に力を合わせて活動する力」「自らの学びへの自信」の5つの視点を示し、児童とともに、ルーブリックを作成し、児童の自己評価力を高めていこうとしています。

その考え方を踏まえ、今回の宿泊体験活動を計画しました。

○庄原小学校「山・海・島」体験活動での重点

②課題を見つけ追究する力

④共に力を合わせて活動する力

これまでに学んできたことへの自信を高めるために、「山・海・島」体験活動においては、児童が主体的に学びを生かせる場を設定し、「ゆめかなシート」を活用し、現在と将来の自分の学びの姿をイメージさせて、形成的な評価を行っています。

また、新たな学びに気付かせるために、総合的な学習の時間と教科等との関連を図ったカリキュラム「ゆめかな学習」の単元開発で培ったノウハウを生かしたプログラムとしています。

2 「山・海・島」体験活動の概要

(1) 目的

○班の友達と協力し、自分の役割に責任をもって取り組む。【共に力を合わせ活動する力】

○自然の素晴らしさを感じ、自然の中で自分なりの課題を見つけ進んで活動する。【課題を見つけ追究する力】

○集団生活のルールを守る。

(2) 3泊4日の主な内容

	午前	午後	夜
1日目	入所式	人間関係づくりプログラム	カプラ
2日目	男三瓶登山	男三瓶登山	天体観察
3日目	家族への手紙	野外炊飯	話し合い
4日目	勾玉づくり	退所式	ファイヤーストーム

3 体験活動の指導の工夫

	事前学習	体験活動当日	事後学習
	目指すべき学びの姿の明確化	体験活動における「ゆめかなシート」の活用	保護者による評価
ねらい	○過去と現在と未来とを比較させることで、自己評価をする力を高める。	○ループリックの取組で育った自己評価力を体験活動で活用し、評価についての実践力を高めることを目指す。	○自ら思考し、追究する力を高める視点で相互評価を取り入れて、児童自身の成長を実感させる。 ○山海島体験活動で育った資質・能力の確実な定着を目指す。
活動内容	○ループリックの作成・活用 ○今の姿と体験活動後の姿を「ゆめかなシート」に書き込む。 ○保護者の願い（期待する姿・思い）を事前に手紙に書いてい	○課題・ミッション・ゴールを書いた「ゆめかな」シートを活用した話し合い活動 ○ポイントとなる活動での話し合い活動 ○1日の活動を振り返る。（しおりに振り返りを書く）	○個人懇談での教員の説明 ○児童による保護者への説明 ○保護者からのコメント
指導のポイントや工夫	○「課題を見つけ追究する力」「共に力を合わせて活動する力」の視点で、ループリックを作成する。 ○その際、前年度のレベル2、3を、今年度の1として、児童に考えさせることによって、内容を向上させる。 ○保護者の願い（期待する姿・思い）を事前に手紙に書いてもらい、その願いを知ること、活動への意欲・目指す姿を明確にさせる。	○直面する課題を乗り越えるために、これまでの経験などを関連付けて考えさせる。 ○野外炊飯の際、課題・ミッション・ゴールを書いた「ゆめかなシート」を活用し、課題解決を図るための方法と、この課題を乗り越えることで身につく力を明らかにする。 ○身についた力を「ゆめかなシート」に記入したり、友達から評価を書き加えたりする。自分で振り返ったり、グループで共有させたりする。	○児童自身の振り返りと他者評価を比較したり、関連付けたりして、「共に力を合わせて活動する力」の具体を、一人一人の児童に明らかにさせる。 ○児童の中でもの見方や考え方が変わったこと、自己の生き方につなげて考えようとしたことなどについて、視点を明らかにしてコメントをもらうことで、育てたい児童の姿に近づけていく。 ○作成をしたループリックに基づいて、再度、自分の姿を振り返らせる。

